

2023年度第4回音環境運営委員会議事録

記録：佐藤逸人（幹事）

日時：2024年1月9日（火）17:00～19:00

場所：Zoom を用いたリモート会議

出席者：池上雅之（主査）、小柳慎一郎（幹事）、佐藤逸人（幹事）、會田祐、上野佳奈子、濱田幸雄、平光厚雄、安田洋介、古賀貴士、星和磨、川井敬二、坂本慎一、羽入敏樹、佐久間哲哉、辻村壮平、富田隆太、中澤真司、豊田政弘（敬称略）

欠席者：田中学、佐藤洋（敬称略）

提出資料：

- 資料4 2023年度第4回音環境運営委員会__議事次第
- 資料4-0 2023年度第4回音環境運営委員会議事録(案)

1) 前回議事録の確認

- ・ 誤字の訂正の他は、原案通り承認された。（資料 No. 4-0）

2) 環境工学本委員会の報告

- ・ 今回は開催なし。

3) 審議事項

- ・ 審議済みの案件について池上主査から報告があった。
 - a) 論文集委員会委員の推薦：京都大学・大谷先生から内諾を得て事務局に11/24に連絡済み。
 - b) 建築大賞推薦書類提出：東京大学・坂本先生に修正いただいて事務局に12/20に提出済み。
- ・ c) 新設委員会・委員公募について
 - 委員の公募の有無について、各WG主査から建築学会事務局に報告する（締切1/22）。
 - 吸音設計AIJES検討WG（羽入）：現時点では委員公募は考えていない。執筆が本格化したら委員の公募をする可能性もある。
- ・ d) 2024年度末に活動報告・意見交換会を開催する件の継続議論
 - 広報委員会からの報告（星）：11月開催の広報委員会で1度議論した。具体的な案まで進んでいないが、3月の音環境運営委員会である程度固めた開催案を提案する予定で進める。
 - 各小委・WGは何らかの活動報告を行うことを前提に準備する。要望があれば音環境運営委員会のMLを通じて星先生に連絡する。
- ・ d) 中長期的な課題対応の小委・WG内議論の状況報告
 - 池上主査からニーズ・課題マップを作成する案について説明があった。それを受けて以下のコメント・議論があった。
 - （豊田）大学でニーズに応じた研究となると、受託研究などで公的に共有できない。ニーズ・課題は実務の方々から出してもらった方が良い。大学からはニーズは難しいかもしれないが、シーズは提供可能。
 - （佐久間）学生向けの説明会等では詳しい研究の話ではなく、音環境の分野全体の大枠の話から始める。他の研究室や企業でもそういった説明をする際に、大枠から始めると思うが、そのあたりの話をする際の工夫等を共有すれば、音環境運営委員会の目的の明確化に繋がるのではないかと。
 - （川井）幼稚園・保育園の分野では潜在的には音響に関するニーズはもっとあるはずだが、エンドユーザー側からボトムアップの形では出てこない（適切な言葉では出てこない）。音響の専門家側から「課題」として提案する必要がある。
 - （羽入）最先端の技術だけではなく、専門家の間では常識の知見であっても社会で活かしきれていないところがある。海外含めて音響技術の社会実装の成功例を共有・集約して、しかるべきところでアピールし、法律や工業規格に入れ込んでいくといったことを上のレベルの組織でできると良い。

- ▶ (小柳) 建築学会大会の発表部門の再分類・再々分類をベースに、どこを今誰がどのように注力しているかを調査すれば(ニーズ・課題マップが)見えるかもしれない。

4) 各小委員会・WGの活動報告(資料 No. 2-3)

① 固体音小委員会(平光)

- ・ 12/7に第3回を開催。
- ・ インピーダンス法について、新旧(2009の緑本と白本)の算出結果に差があることを確認。今後、使い分けなどの実態を調査。
- ・ WOODRISE 2023の発表内容を報告。
- ・ 木造建築物の床衝撃音遮断性能のカタログ表記方法について議論し、情報発信の方法については引き続き議論を行う。
- ・ 品確法の改正に向けた情報提供を行った。
- ・ 次回は2/1に開催予定。

② 集合住宅の遮音性能評価水準検討小委員会(濱田)

- ・ 個人のパーソナリティが音環境評価に及ぼす影響、列車種類と編成がうるささに与える影響について検討している。
- ・ 上記と音環境運営委員会からの課題、今年度の活動成果報告書、といった事項について、次回委員会(1月末に開催予定)で審議する。

③ 建築音響測定法小委員会(會田)

- ・ 今年度第4回を12月4日に開催
- ・ 来年度大会OSの発表候補者の内諾状況を報告
- ・ 外装部材風騒音調査ガイドライン検討WGの新設について主査より説明を行った
- ・ 低音域室内音場の計測法について、数値シミュレーションによるケーススタディを行う計画を議論。大分大にて解析を行う予定。
- ・ 昨年度行った実験住宅での実験結果について再分析を行い、狭帯域分析等による室内モードの可視化と同定を検討した。
- ・ 次回第5回を2月5日開催予定。

④ 室内音響小委員会(上野)

- ・ 前回から開催なし。
- ・ 次回議題: 音環境の重要性の啓発を主目的としたチュートリアルについて、周辺分野の事例を元に議論する。
- ・ 次回第4回を1月29日(月)に開催予定。

⑤ 音響数値解析小委員会(安田)

- ・ 第3回委員会を12月25日に開催。
- ・ 伝送系データベースの整備: 提供可能なデータについて報告。スタジオなどでの低域のモードの影響、低周波音の屋内伝搬、CLT建築物の振動予測などが挙げられた。今後データのフォーマットについて議論する必要がある。
- ・ 床衝撃音の数値解析: 報告なし。
- ・ ベンチマーク基盤プラットフォーム: 古い情報の削除を再確認。
- ・ 音響インピーダンスデータ整備: 現場測定データも収集する意義があるのではとの意見。一方で、現場測定データを用いた計算は実測と合わないという報告あり。
- ・ 第4回委員会: 3月中に開催予定。

⑥ 音環境規準検討小委員会(池上代読)

- ・ 今年度第4回委員会を12/13(水)に開催。
- ・ 集合住宅音環境および吸音設計の各AIJES案の検討状況を共有した。また、今後のAIJES整備に向けて、「技術軸・用途軸」によるAIJES全体マップを再検討するとともに、事務所AIJESの作成準備を始めることを決め

た。

- ・傘下の集合住宅音環境AIJES検討WGは、11/20（月）および12/27（水）に拡大WG会合を開催した。音シンポジウム3/1の開催に向けて、室内静ひつ性能など各論の議論を進めている。
- ・第5回委員会は2月14日（水）に、傘下AIJES検討WGは次回1/29（月）に開催予定。

⑦ 企画・広報 WG（星）

- ・11月10日に会議を実施、運営委員会からの要請を受け、「小委員会を横断した情報交換」に関するシンポジウムを実施するとしたら、どのような形態が良いか議論した。
- ・次回会議は1月22日（月）、年度内にある程度の具体案を示せるように活発に議論していく。

⑧ 実用的遮音計算方法WG（古賀）

- ・12月15日に第5回WG開催。作業を進めるうえで、全体を俯瞰するマップを作成中。原稿執筆にあたり、まずは、フォーマット(=どういうことをどこに書くか)の叩き台を作成する。
- ・次回は、3月22日開催予定。

⑨ 子どものための音環境WG（川井）

- ・2024年度の子どものための音響設計に関するシンポジウムについて、開催に向けた準備をしている。
- ・開催日を7月29日（月）、会場を建築会館ホールと決定した。登壇者全員の承諾も得た。今後、3月の環境工学本委員会で承認を得て、正式に開催決定となる。
- ・以上の検討のため、11/27と12/25にオンラインWG会合を開催した。
- ・新委員2名（岡庭 拓也（日大）、丸山直也（熊本大））のWG加入
- ・以下2点が口頭で報告された
 - 新委員はさらに1名の追加を検討中。→ 確定後に先の2名と併せてメール審議する。
 - シンポジウムの企画書の説明があった。

⑩ 環境心理生理運営委員会（辻村）

- ・報告なし

⑪ 環境振動運営委員会（富田）

- ・第41回環境振動シンポジウム「新しい木造建築の展開と環境振動」
主催：日本建築学会 環境工学委員会 環境振動運営委員会
日時：2024年1月26日（金） 13時30分～18時00分欠席のため報告なし

⑫ 司法支援建築会議（中澤）

- ・12月12日（火）に第23回司法支援建築会議講演会「建築技術と建築紛争の関係と対応 ― 防火・耐火を中心に―」を、建築会館ホールとオンラインで開催。参加者70名（会場20、オンライン50）。
- ・次回部会を2月9日（金）に開催予定。主な議題は、第24回講演会と大会付属行事として毎年開催している建築紛争フォーラムの企画。

⑬ ASJ建音研（豊田）

- ・1月オンライン、2月休会、3月大阪。3月は関西大学で対面開催。

⑭ ISO(佐藤洋)

- ・欠席のため割愛

5) その他

- ・特になし

6) 他学会・研究会の予定

- ・日本音響学会建築音響研究会
 - 先の報告の通り
- ・日本音響学会騒音・振動研究会
 - 1月12日に神戸大で開催。2月は鉄道総研、3月は東大生研：道路交通騒音のASJモデル。

7) 締め切り関係

- ・活動成果報告書：音環境運営委員会内の締め切りは1/31。建築学会オンラインストレージの「2023年度委員会活動成果報告書提出」フォルダに提出する。

8) 今後の開催予定

第5回：2024年3月12日（火）17:00～19:00

2024年度第1回は5月上旬に開催する予定

以上